2022（令和4）年度　JABTS事業報告書

１．学術集会の開催

第48回日本乳腺甲状腺超音波医学会（JABTS48）

2022年4月23日～24日（ハイブリッド開催）

2022年5月9日～ 22日（オンデマンド配信）

大会長　亀井　桂太郎　大垣市民病院

第49回日本乳腺甲状腺超音波医学会（JABTS49）

2022年10月8日～9日　（ハイブリッド開催）

2021年10月17日～11月14日　（オンデマンド配信）

大会長　福原　隆宏　　鳥取大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

２．委員会の活動

編集委員会　島　宏彰

・令和4年度は、機関誌出版に向け、委員会を開催し、7月に第10巻3号を発行した。

投稿規定の改訂をした。

・令和5年1月には、第12巻1号を発行する。

財務委員会　鈴木　眞一

・学会事務局の財務状況に関する検討

・NPO法人から移行した基金の運用状況の確認

・学術委員会での財務に関する助言

・事務局移転に関する財務状況の確認および将来に向けた展望　（JABTS49での臨時財務委員会開催）

など

教育委員会　渡辺　隆紀

・2022.4.24 JABTS48名古屋

教育委員会企画：1cm以上の腫瘤像を呈したDCIS

第一回乳房超音波基礎・針生検講習会(座学講習・実技講習)

座学講習会参加者(医師)：80名

実技講習会参加者(医師)：54名

・2022.9 JABTS49米子

教育委員会企画：乳房再建について学ぼう

– 再建方法から正常・異常の超音波像まで –

教育委員会インターベンション小委員会企画：ミニレクチャーと次の一手

教育委員会インターベンション小委員会企画：組織マーカー留置体験

・2022.6.4第二回乳房超音波基礎・針生検座学講習会(オンライン)

参加者(医師)：120名

・2022.7.1 第二回乳房超音波基礎・針生検実技講習会(乳癌学会)

参加者(医師)：54名

・技師初心者向け乳房超音波講習会(名称未定)

教育委員会では、今年度から医師の初心者向け講習会を開始したが、来年度から技師の初心者向け講習会を開始予定である。目的としては乳房超音波に関わる技師を増やすこと、そして将来的にJABTSの会員を増やすことである。講習会の名称は未定であるが、「技師向けの超音波講習会小委員会」を立ち上げ、準備を進めている。現在までZOOM会議を3回行った。

第1回ZOOM会議：2022.6.8

第2回ZOOM会議：2022.7.11

第3回ZOOM会議：2022.12.19

なお、本講習会は講習会1と講習会2の二回に分けて年一回ずつ行う予定である。2023年夏―秋に講習会1をオンラインで行う予定で準備を進めている。なお、講習会2は講習会1の数ヶ月あとにオンラインで行う予定である。

会則委員会　古川　まどか

・昨年度に引き続き、JABTS定款細則等の変更等の会則の見直しとして、JABTS役員候補者選考規則の改訂案を作成し、理事、監事選出に関する内容の見直しと会則改訂作業　を行い、評議員会にて報告を行った。

国際委員会　亀井　桂太郎

・JABTS48　国際委員会企画 2022/4/23

 JABTSの今と未来を考える～委員会・研究部会から～

「国際委員会の今と未来を考える」

・JABTS49　国際委員会企画　2022/10/9

「Current status and characteristics of Head and Neck ultrasound practice in Asian countries」

Prof. Woojin Cho (WITHSIM clinic)

Prof. Tsung-Lin Yang (National Taiwan University)

Prof. Hok Nam Li (The Chinese University of HongKong)

・3rd Breast Forum of Mongolian Society of Breast Imaging　2022/10/29

 ハイブリッド開催

ミニレクチャー（Zoom）　　植野映，髙田悦雄，亀井桂太郎

乳腺用語診断基準委員会　中島　一毅

・令和4年度は次期乳房超音波診断ガイドラインの改訂を見据えて、ガイドラインの本質的改訂を想定し、乳房超音波診断ガイドライン改訂委員会を組織いたしました。

当初、これまでの診断基準に対して、システマテックレビューを行うことを想定しておりましたが、DTA（診断研究）の多くが、スタンダード検査(RS)を受けた対象にインデックス検査（IT）を受けることのアウトカムを調べる研究デザインとなるため、RCTデザインの大規模試験が極めて少ないことが判明した。さらに、特に乳房超音波検査の研究報告の結果から鑑みると、超音波装置の性能が時期によって大きく変わっていること、超音波検査技術の影響が大きいにも関わらず超音波撮像技術の精度管理がないものが殆どであることなども判明しました。以上の判明結果から、既存の研究報告からのシステマテックレビューの意義が低いと判断するに至りました。

また、これまでの研究アウトカムは乳癌かそうでないかが殆どで、確定診断の鑑別は病理診断に依存しています。ご存じの通り、前回のWHOの病理診断改訂で超音波診断は最終アウトカムである病理診断名が変更され、前回のガイドライン作成は大変な苦労をされています。必要なのは病理診断名ではなく、臨床的マネージメントにつながる診断です。

以上から、次期ガイドラインではアウトカムを病理診断名ではなく、臨床的マネージメントをすすめるのに有用な情報提供できる診断基準の作成と検証をすすめることとしました。具体的には二つの「乳房超音波検査上悪性が疑われる病変に対するマネージメント」、「乳房超音波検査上良性が疑われる病変に対するマネージメント」の二つのアウトカム別チームを編成し、活動を開始しました。ほほ、毎週の委員会により、ある程度の骨子ができつつあり、令和4年度はJABTS総会等で途中経過の供覧とVOTINGによる共感性等の確認作業を行っております。

来年度は診断基準を完成形に近づけていけるように活動を継続するとともに、エビデンスを作成する準備も開始する予定です。

また、奥野委員が中心となって進めていただいた、Ｂモード診断にエラストグラフィと血流情報を追加する研究は論文作成されています。関係者に先生がたには大変感謝申し上げます。

甲状腺用語診断基準委員会　村上　司

・甲状腺超音波ガイドブック第4版への改訂作業

・福島県「県民健康調査」の甲状腺超音波検査への支援

・福島県医師会による超音波講習会及び認定試験への支援

・第48回JABTS　甲状腺超音波ガイド下穿刺専門資格認定委員会

教育セミナー、ハンズオンセミナーへの協力：

1. 複数の視点で見る甲状腺穿刺

演者：中野　賢英

1. 甲状腺超音波ガイド下穿刺診断コーディネーターとしての技師・看護師が知っておくべきこと

　　　　演者：衛藤　美佐子

1. ハンズオンセミナー

・第48回JABTS　甲状腺用語診断基準委員会企画

「よく遭遇する甲状腺疾患　第7回」：橋本病と甲状腺リンパ腫

・第49回JABTS　甲状腺超音波ガイド下穿刺専門資格認定委員会

教育セミナー、ハンズオンセミナーへの協力：

1. 教育セミナー「甲状腺」

演者：北川　亘、天野高志

1. 教育セミナー「医療安全」

演者：福島光浩、小池良和、安藤孝人、志村浩己、佐々木栄司

1. ハンズオンセミナー

・第49回JABTS　甲状腺用語診断基準委員会企画

「よく遭遇する疾患　第8回」：頸部リンパ節腫脹

利益相反委員会　久保田　一徳

・「学術集会」の演者、「機関誌」の著者については、特に違反の報告はなかった。

・令和3年度の「役員等の利益相反自己申告書」は194名から提出があり，14名からCOIの申告があった。

・「役員等の利益相反自己申告書」提出者の中で、COIの申告があった14名については、その状態の判断ならびに助言、指導のため、個人情報の保護に留意し、委員長と志村副委員長のダブルチェックで内容を確認した。その結果、特に問題となる事例はなかった。

・委員会のメール審議にて、上記の内容について承認を得た。

倫理委員会　北川　亘

・プライバシーポリシーに関して審議依頼があり、倫理委員会で検討し理事会に報告した。

広報委員会　三塚　幸夫

・会員宛のメール配信
他団体からのメール配信依頼対応に対応した．2021年12月8日～2022年12月20日までの間に対応，配信したメールは以下となる．

|  |  |
| --- | --- |
| 配信日 | メールタイトル |
| 2022/1/21 | [ALLJABTS:000127] 第28回日本産婦人科乳腺医学会　演題締切延長・登録開始のご案内 |
| 2022/3/18 | [ALLJABTS:000132] 第28回日本産婦人科乳腺医学会　第13回DCIS研究会併催のご案内 |
| 2022/10/21 | [ALLJABTS:000169] 第32回日本乳癌検診学会学術総会　参加登録開始・日程表・プログラム公開のご案内 |
| 2022/10/27 | [ALLJABTS:000172] 第32回日本画像研究会　演題募集のお知らせ |
| 2022/11/4 | [ALLJABTS:000173] 第32回日本乳癌検診学会学術総会の開催についてのご案内 |
| 2022/11/28 | [ALLJABTS:000176] 第32回日本乳癌検診学会学術総会　オンデマンド配信のご案内 |

※ 2021年度報告に2021年12月7日までのものを記載したため，

一部2021年度分も含め記載した

・ホームページの修正・更新
事務局と連携して，随時，ホームページの修正・更新をおこなった．
会員専用ページの開設に向けた準備を進める予定であったが，事務局業務委託の変更計画があり，これに伴いホームページの運用形態も変更になる可能性があることから，作業を見送った．

学術委員会　東野　英利子

**・2022.7.25　2022（令和4）年度　第１回学術委員会（Zoom会議）**

１．JABTS研究部会員名簿、乳房超音波診断ガイドライン改訂小委員会名簿を学術委員会としては承認した

２．委員会・研究部会の書類提出期限について以下のスケジュールを確認した

３．受講料収入がある講習会の講師謝礼について

　甲状腺超音波ガイド下穿刺診断専門医資格認定委員会と教育委員会の講習会の謝礼は出来るだけ合わせるということでハンズオンに関しては1万円／コマ、座学に関しては次回検討する

４．何森先生から提出されたGTC研究に関する資料に関して検討し、研究部会とすることは難しいので、理事長宛の依頼を作成して貰い、理事会で検討することとした

**・2022年８月第2回学術委員会（Zoom会議）**

１．2022年度JABTS研究部会員名簿の術前化学療法に関するTILｓ超音波画像診断研究部会名簿に関して

オブザーバーが居るが、研究部会では研究協力者が参加可能なので、オブザーバーではなく、研究協力者として頂くことにした。また

　　　　研究部員は本会正会員であること。

研究協力者は本会正会員であることが望ましい。

とすることとした

２．乳房超音波診断ガイドライン改訂小委員会の役割と任期に関して確認を行った

３．受講料収入がある講習会の講師謝礼について、下記のように提案する

講義：

講義のみの参加（学術開催時の開催）：1万円／講義

講義＋半日の拘束（Web講習会を含む）：2万円

実技講習

1万円／コマ　（1コマは1時間以上の実技講習）

４．学術総会における招聘演者の謝礼について検討を行ったが結論は出ず、今後も検討していくことになった

**・2023年1月第3回学術委員会（Zoom会議）**

　　各委員会、研究部会の2023年度予算について検討し、2022年度事業報告、2022年度決算（予定）、2023年度事業計画について確認を行った

甲状腺超音波ガイド下穿刺専門資格認定委員会　志村　浩己

・専門資格暫定認定の申請を受け付け（2021年度内受付），書類審査を行った結果，甲状腺超音波ガイド下穿刺診断専門医16名，甲状腺超音波ガイド下穿刺コーティネーターを２名認定した。

・専門資格を取得した本委員会委員に対し，甲状腺超音波ガイド下穿刺診断暫定指導医（3名）を認定した。

・JABTS48およびJABTS49において，甲状腺専門資格教育セミナー（甲状腺）を２回，甲状腺専門資格教育セミナー（医療安全）を２回開催した。

・2022年度中に，甲状腺ハンズオンセミナーを４回開催した。

・2022年度の専門資格暫定認定の申請を受け付け，書類審査を行った。審査が終了次第，専門資格の認定および暫定指導医の認定を行う予定。

乳がん検診委員会　坂　佳奈子

・混合性腫瘤のカテゴリー変更に関しての論文に関しては現在の作成中であり、継続事業とする。

・非腫瘤性病変の乳管内病変のカテゴリーの変更、要精検基準の変更が現時点での課題であるが、第一回目の報告はJABTS48にて各委員の施設のデータをまとめ、検証を開始した。今後はJABTS48の結果を踏まえ、2023年度にJABTS50でさらなる検証を行う予定である。

３．研究部会の活動

FUSION 02研究部会　明石　定子

・Fusion02試験登録

・学会発表

* 1. JABTS49　研究部会企画
	2. 第３０回日本乳癌学会学術集会　中野正吾

・研究部会ミーティング

4/17　及び10/5にwebにてミーティング実施。登録の促進と次の研究コンセプトを相談した

リンパ節診断（治療効果判定）研究部会　古川　まどか

・JABTS46およびJABTS47において、それぞれ研究部会企画を施行した。

一つは、JABTSに関係する領域の癌のリンパ節転移に対する薬物治療効果の超音波による効果判定につき各領域での特徴、共通点、相違点についてデータを出しながら討論を行った。転移リンパ節の存在する領域や癌の種類、組織型によってリンパ節の見え方やリンパ節転移の超音波像が異なることが明らかとなり、そのため、薬物治療による変化の様式も異なるため、着目する所見が異なってくることが明らかとなった。

薬物以外の放射線治療に関する治療効果による転移リンパ節超音波像の変化、効果判定についても議論を深めることができた。

乳房超音波精度管理用ファントム自体の経時的劣化について検討する研究部会

河本　敦夫

・2021年11月に日常点検用体表超音波精度管理ファントムUS-４Bが販売開始となった。US-4Bファントムのサンプル品を新ファントムとして各部会員に順番に送付し、各施設で2016年から約６年間使用しているファントム（旧ファントム）と新ファントムを同一条件で撮像を行い、ファントム自体の劣化の評価を行った。

・JABTS48学術集会【委員会・研究部会　報告①】にて研究部会報告を行った。

宮本　淑子　精度管理ファントムの普及状況に関するアンケート結果報告

・第二回精度管理ファントム普及調査のアンケートを2022年8月～9月の期間、JABTS会員メール送付とJABTSのHP上に掲載し、ファントムに関する認知度やファントム保有率などについて調査を行った。回答を集計し、研究部会報告としてJABTS学会誌へ論文化を予定。

・JABTS49学術集会【研究部会企画】にて３演題の報告を行った。

桜井　正児　　表在用超音波ファントムの開発をふり返って

小柳　紀子　　当院におけるファントムを用いた超音波診断装置の精度管理

　小穴　菜緒美　体表超音波精度管理ファントム自体の経時的劣化の評価　第二報

・部会員各施設で旧ファントムを用いた精度管理を行い、ファントム耐用期間を超過しても継続使用が可能か検討を行った。

甲状腺結節に対するドプラエコーの有用性に関する多施設研究部会　志村　浩己

2022年度は以下の事業を実施した。

・前向き研究 (Feasibility study)のデータを部会内で解析し，JABTS48にてその成果を発表した。

・上記解析により，標準化されたドプラ検査法と血流分布パターンの判定基準，血流測定方法のプロトコールの改訂を行い，標準プロトコールを改訂した。

・ドプラエコー検査判定基準の作成を目的としたObservational studyの開始に向け，研究計画を検討し，2023年の開始に向け準備を行った。

・甲状腺結節の血流解析における実施プロトコールと判定基準の作成

a.　前向き研究 (Feasibility study) の一部のデータを部会内で解析を追加し，ドプラスペクトラム解析の測定条件の標準化のための検討を実施した。

b. 上記解析により，標準化されたドプラ検査法と血流分布パターンの判定基準，血流測定方法のプロトコールの改訂を行い，標準プロトコールを改訂した。

・改訂研究計画に基づいた前向き研究(Feasibility study)を実施し，データ解析を実施し，JABTS48での発表に向けての結果の分析を行った。

・ドプラエコー検査判定基準の作成を目的としたObservational studyの計画を作成した。2022年４月に開始予定である。

低エコー域造影超音波研究部会　　三塚　幸夫

・研究の進捗状況
　現在，研究代表施設である北海道大学病院にて倫理審査申請中．

・2022年度の活動

* 1. 研究協力者の募集
	　JABTS48にて開催された「新規研究部会発表」セッションで，研究概要を報告し，新たな研究協力者を募った．7名の応募があり，Web会議でさらに研究の詳細を伝え，ディスカッションをおこなった上で，7名全員を新たに研究部会メンバーとして追加した．
	2. 会議

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 開催日 | 内容 |
| 第1回会議 | 2022年4月20日 | * 研究部会発足
* JABTS48の委員会・研究部会セッションでの報告内容の確認
* 研究協力者の募集スケジュール
* 研究計画書の作製・確認
 |
| 第2回会議 | 2022年6月2日 | * 研究協力応募者への説明会
 |
| 第2回会議 | 2022年6月3日 |
| 第3回会議 | 2022年7月20日 | * 研究計画書の作製・確認
* 検査手技，評価基準の確認，検討
 |
| 第4回会議 | 2022年10月19日 | * 評価基準および判定の均てん化のための目合わせを兼ねた勉強会
* JABTS50における研究部会企画について
 |

術前化学療法に関するTILs超音波画像診断研究部会研究部会　　島　宏彰

先行研究で術前化学療法(NAC)前のTILs-US scoreがNACの効果予測に応用できる可能性が示唆されている。本研究部会では多施設での研究によりNAC前に行うTILs-US scoreが、術前針生検におけるLPBCの評価と同等、あるいはそれ以上にNACの治療効果を予測できるかを検討するもので、広島大学原爆放射線医学研究所 腫瘍外科 恵美純子先生を研究代表者とした他施設共同研究である。

本研究の重要な骨格となる病理学的評価について有廣光司先生、山口倫先生による専門的助言のもと研究計画のブラッシュアップがなされ、また、研究部会員拡大となったため、主研究施設における研究計画書更新となり研究部会員にその決定通知書が共有された。

現在、各施設のIRB申請中である。

４．理事会・評議員会

理事会

・第12回理事会 　　　　　　　　2022（令和4）年4月11日

・第13回理事会（メール審議） 　2022（令和4）年4月13日

・第14回理事会（メール審議）　 2022（令和4）年5月31日

・第15回理事会　　　 　　　　　　　2022（令和4）年9月21日

・第16回理事会（メール審議） 　　　2022（令和4）年11月17日

・第17回理事会（メール審議）　 　　2023（令和5）年1月4日

・第18回理事会 　　　　　　　2023（令和5）年2月20日

評議員会

・第1回定時評議員会　2022（令和4）年4月23日

・第2回臨時評議員会　2022（令和4）年10月8日